

造影検査を受けられる患者様へ

特に指示が無い限り、午前の検査の方は朝食を、午後の検査の方は昼食を抜いてください。

水やお茶、お薬など(乳製品を除く)は通常通りお摂りください。

1. 造影検査について

造影検査は、造影剤を投与しながら行う造影X線検査です。

造影剤の使用により、病気の存在や性状などがより詳しく正確に描出され、精度の高い診断に大変役に立ちます。

2. 造影剤の副作用

検査に際しては、患者様の症状や過去の病気、家族の方の病気などに注意し、安全に検査が行われるように努めておりますが、検査中あるいは検査直後～数日後に下記の様な副作用症状が起きる場合があります。

実際に副作用が生じた場合には、その内容と程度に応じて速やかに必要な治療を行います。

○軽い副作用(頻度は約2～4%以下):

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい

じん麻疹、発疹、かゆみ、手足のむくみ、発熱、せき、など

○重い副作用(頻度は約2万5千人に1人、0.004%):

まれにアナフィラキシー(例えばショックや呼吸困難)と呼ばれる重度の副作用が生じることがあります。また、極めてまれ(頻度は約40万人に1人)ですが、造影剤による副作用で亡くなる方がいることも知られています。

3. 副作用の頻度

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が相対的に高く、症状が強くなる場合もあり、担当医師の判断により造影検査を行わないこともありますので、問診表の記入は正確にお願い致します。

- ・過去に造影剤やヨードによる過敏症症状を起こしたことのある方
- ・気管支喘息などの重いアレルギー性疾患のある方
- ・ほかのお薬に対する過敏症や食物アレルギー歴のある方
- ・甲状腺の病気や糖尿病でお薬を飲まれている方

以上の説明を十分にご理解頂いたあと、検査当日までに「造影検査同意書」にご署名をお願い致します。

なお、同意書に記入された後いつでも撤回することができます。

ご不明な点は、担当医師または下記にお問い合わせ下さい。

造影検査を受けられる患者様で、糖尿病薬を服用している方へ

糖尿病薬のうち、ビグアナイド系糖尿病薬を服用している患者様に、造影CTや透視手技で用いるヨード造影剤を投与した場合、極めて稀にはありますが、乳酸アシドーシスという重篤な副作用を発現することがあり、一時的に服用を中止するのが望ましいとされています。

乳酸アシドーシスの症状は、初期症状として、筋肉痛・筋肉痙攣・倦怠感・脱力感・腰痛・胸痛・嘔気・嘔吐などで始まり、進行すると過呼吸や脱水・低血圧・低体温などの症状が現われ、放置すると昏睡状態に陥ることもあります。

万が一の副作用を防止するため、ビグアナイド系糖尿病薬を服用している方は、

- 造影CT検査後48時間は**、ビグアナイド系糖尿病薬の服用中止をお願い致します。
- 場合によっては**造影CT検査前48時間も**、ビグアナイド系糖尿病薬の服用中止をお願いすることがあります。

検査予約日時

年 月 日 時

【ビグアナイド系糖尿病薬服用中止期間】

検査前

月 日（朝・昼・夕）から、
薬の服用を中止して下さい。

検査後

月 日（朝・昼・夕）から、
薬の服用を再開して下さい。

ビグアナイド系糖尿病薬

薬品名

エクメット配合錠

イニシンク配合錠

メトアナ配合錠

メタクト配合錠

メトホルミン塩酸塩錠

メトグルコ錠

グリコラン錠

ジベトス錠

ジベトンS腸溶錠

造影検査後の帰宅後でも、体調不良などありましたら、いつでもご連絡下さい。

その他、何かご不明な点がございましたら、当院までご連絡下さい。